# 平野区地域福祉計画 第１回策定委員会　会議要旨

日　時：令和４年 11 月 14 日（月）午後１時 50 分～午後３時 30 分
場　所：平野区役所　５階　501 会議室
内　容：以下のとおり

１　開会
・策定委員会の記録と公開について、「大阪市審議会等の設置及び運営に関する指針」の主旨説明。発言内容の要旨、発言者氏名を記録した会議録、資料の公表について説明。

２　平野区長あいさつ
・平成 29 年度に策定した平野区地域福祉計画（第２期）の計画期間満了に伴い、令和５年度からの第３期計画の策定にあたり、これまでの取組を振り返った。社会福祉、高齢者福祉、障がい、保健・医療、児童福祉など、それぞれの分野で多くの実績や成果が得られたものの、課題が明らかとなり、これまでの取組を継続、発展させていく必要がある。
・児童虐待やヤングケアラー等の問題も明らかとなってきており、さらには、コロナ禍で地域の福祉活動が制限される中、健康や公衆衛生、健康寿命を延ばすことの重要性が浮き彫りとなっている。加えて、地域福祉を考える上で、防災の視点も不可欠である。
・各分野に精通され、また、活躍されている委員としてご参画いただきご意見をいただきたい。それらを次期計画の中で取り上げ、平野区に関わる全ての皆様と、「笑顔輝くまちひらの」をめざしていきたい。

３　策定委員の紹介
・別紙のとおり

４　委員長選任
・委員長を、互選により野村委員を選任。委員長の職務代理者に川野委員を選任。

５　議事内容
・虐待が急増していること、課題が深刻化、複雑化、多様化しているということ、課題は潜在化していて見えづらくなっている。
・本当に多くの窓口で事業があるが、内容をほとんど知らなかった。計画をいかに住民に知っていただくのかが重要。医科、歯科、薬局等の医療現場でも、周知していくとより住民が気軽に相談できると思う。
・平野区地域自立支援協議会の当事者部会の中で、災害に遭った時に誰が障がい者を面倒みてくれるのかとの意見があった。災害は来ないと思っている人も多い。台風の時には安否確認を行ったが、大震災となれば支援者も被災する。災害への意識について、障がいのある人にも周知する必要がある。

・南海トラフ地震が 40 年以内に 90%の確立で起きるという意見もあり、大阪は自然災害、特に巨大地震からは逃れられないと思う。その危機感を区民にも持ってもらうことが重要。
・第２期計画の中で記載していた「新たな民助」であるが、官民連携を早期に掲げており、平野区の地域にある企業等と地域、行政が協働していく仕組みを示している。企業も協力してくれているという安心感が伝わる計画をめざしている。
・持続可能な地域をつくっていくためにも、今まだ支援を必要としていないが、近い将来支援が必要となる人たちとともに、様々なことに取り組んでいくことも出てくるので、一緒に色んなことをしていかないといけない場面が出てくると考えられ、計画に入れていきたい。
・この数年の感染症との闘いの中で、福祉を進める上で健康や公衆衛生等の保健分野が重要と学んだ。健康寿命を延ばすことが持続可能な地域福祉をつくるためには不可欠である。地域の役員のなり手がない、次世代を担う人たちがいないというのは、喫緊の課題にと思っている。
・第２期の計画の期間に平野区ではいくつかの児童虐待の事案があり、障がい者の人権侵害と思われる事案もあった。区役所内の部署と部署との連携や、事業の啓発等が十分だったのか反省しないといけないところもあり、それらを抜きに次の計画の策定はできないと思っている。
・保健分野で医療と障がい者とのつながり等、様々な分野のつながりを盛り込んでいけば良いと思う。６年計画だと途中で情勢が変わる可能性もあるが、コロナだけでなく感染症はこの先もずっと続いていくと思うので、感染症対策等の内容も入れてみてはどうか。
・保健福祉という計画名なので、具体的に保健・医療と福祉とのつながりが分かりやすく明記されても良い。コロナというのは一つのきっかけであり、これから先新たな感染症等の対応をどう考えていくか検討をお願いしたい。
・自助、共助、公助、共助と互助の考え方が地域包括ケアシステムの表現と相違があるが、平野区独自と捉えて良いか。8050 問題が多いと聞いたが 9060 問題も多いとのこと。
・在宅医療ケアネットワークがこの３年間開催されていないが、計画に記載する　と取り組むこととなるため、オンラインでの開催等工夫をして取り組んでみてはどうか。
・7040 問題も地域でよく出ている。8050 問題につながらないために予防的にどう早く介入するか、予防的観点が必要と思う。人口動態も含めて社会の構造は変化するが、それに伴い社会課題は変化する。６年も福祉計画の期間があると６年後は違う社会課題が出てくる可能性もある。計画を見ながら活動をする専門機関等は、その専門的な支援が固定化しやすいと指摘されていて、実態と支援を連動させるためには、ある程度計画の中で社会構造の変化に伴う新たな課題に対応して観点から、新たな課題を取り上げることは必要かもしれない。
・医師会としても災害時の緊急対応を区民にできるようにマスク等の備蓄を始めている。また、災害時の医療機関同士の緊急連絡網をつくった。災害時には医療関係者も被災しているが、医師会としてできることを検討していく。
・大阪市では要援護者名簿を作成しており、避難計画を策定していく必要がある。要援護

者名簿を活用した見守り活動をしている地域もあり、このような普段のつながりから個別避難計画を策定していくということが一番大事だと思う。地域の人が要援護者に訪問があった時に情報を出してもらえるよう伝えてもらいたい。近い将来、南海トラフ地震が起こるとされていることを、地域住民に伝えていくのも地域団体や民生委員の仕事と思っている。平野区には津波が来ないというふうに思っている人が非常に多いと感じている。しかし、大和川を遡るということもありえる。また、奈良方面で大雨の場合、大和川に流れると言われている。特に、王子付近で崖崩れが起こると大和川をせき止めてしまうと言われている。そうなると、土砂等が平野区に来て被害は大きくなる。これらの危機感を感じながら福祉計画の策定を進める必要もある。

・歯科医師会では年１回、口腔ケアに関する講座を行っている。日常生活の中で口腔ケアというのは大事なことなので、歯科の面からも協力していく。

・最近、孤独死された住民がいた。近隣住民から地域役員に連絡が入るが、近親者の連絡先を把握できていない。それまで元気な姿を見ていたが近隣住民が異変を感じ消防署に連絡して亡くなっているのが分かった。もう一つの案件は親族から連絡がつかないという相談があり、近隣住民に訪ねたところ入院していることは分かったがどの病院にいるかもわからないということであった。偶然に関係機関との関りの中で入院先を把握できた。地域活動をしていても、緊急連絡先を把握できていないことが多々あり、個人情報と言われ収集も難しい。地域としても課題と感じており、何か良い方法等あれば教えてほしい。

・区として見守りネットワーク強化事業の取組として、区社会福祉協議会と連携して行っている。そのような気になる世帯があれば、関係機関と連携して訪問等を行っているが、ご指摘のとおり日頃のつながりが希薄な世帯も増えており、何かあった時に緊急連絡先を把握できていない世帯もある。どのように取り組んでいくべきか検討していきたい。

・孤独死の課題は、24 区共通する課題と思う。本人は近隣住民に迷惑をかけたくないと思いつながりはいらないと思っているが、地域住民として、孤独死があることほど精神的な負担がかかると思う。孤独死予備群と表現するとして、当事者と周囲の住民とが何ができるかを一緒に考えてもらう機会が必要と思うし、その支援を専門職が担う必要があると思う。住民と専門職の協働により孤独死に対する予防的な対策がどうできるか意見を共有する場をつくることが必要と思う。完全に予防できるものではないと思うが、いろんな居場所をつくっていくことも必要と感じている。

・障がい者の災害時における支援の取組をどこまで計画に反映することになるのか。

・具体的な事業の取組をどの程度記載できるかはまだ検討中であるが、いただいているご意見を踏まえて表現していく。

・取組を実行できるようにするための計画とするのかということ。障がい者を災害時に誰が支援するのか、どこに避難させるのか、避難先に生活できる備蓄があるのか、そのような具体的な内容まで本当は必要と思う。

・大阪市として個別避難計画の策定は指示されている。どのくらいの数をつくるか、ではなく、まず個別避難計画の策定に着手することが指示されている。見守り活動が積極的に行われている地域等と連携しながら策定することも検討している。また、平野区では

訪問看護事業者の連絡協議会が防災について興味を持っているので、行政から地域団体へとつないでいる状況である。着実にできることを計画に記載しなければならないと考えている。

・昔から平野区には多くの公営住宅があった。平屋建てが多く近隣住民も挨拶が多かったと記憶している。しかし、現在の公営住宅が高層化し、近隣住民同士のつながりが希薄になっているとよく聞く。計画に記載のある「あいさつ」「声かけ」が昔と比べて少ないと思うし、誰が住んでいるかも分からない状況。平野区は人口も多いので、もっと具体的に平野区にあった取組を検討してほしい。

・先ほど意見のあった孤独死について、気になる世帯の把握を町会の役員等が訪問し声かけをする等、関係づくりをしていくことも必要と思うし、活動を各地域で取り組めば個別避難計画の策定もつくりやすいと思う。

（別紙）

平野区地域福祉計画策定委員会　名簿

| 氏名 | 専門分野 | 役職等 |
|---|---|---|
| 植西　正子 | 社会福祉 | 社会福祉法人大阪市平野区社会福祉協議会<br>評議員 |
| 江上　浩史 | 保健・医療 | 一般社団法人　平野区歯科医師会　会長 |
| 大久保　康則 | 障がい福祉 | 平野区地域自立支援協議会　会長 |
| 織田　貴子 | 児童福祉・子育て支援 | 東喜連保育園　園長 |
| 川野　光男 | 地域福祉・地域活動・<br>防災 | 平野区民生委員児童委員協議会<br>副会長 |
| 鶴澤　知典 | 高齢者福祉 | 平野区地域包括支援センター運営協議会<br>委員長 |
| 野村　恭代 | 社会福祉・地域福祉 | 大阪公立大学　教授 |
| 渡辺　勉 | 保健・医療 | 一般社団法人　大阪市平野区医師会　理事 |

五十音順・敬称略